

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570201048		
法人名	社会福祉法人 報謝会		
事業所名	グループホーム ミューズの空 庄内	ユニット名	2号館
所在地	都城市庄内町8122番地1		
自己評価作成日	平成29年6月27日	評価結果市町村受理日	平成29年8月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kan=true&JigovsyoCd=4570201048-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成29年7月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周りは田畑に囲まれ、敷地内も広く施設内を散歩出来、のんびりと生活して頂ける環境である。建物は古いですが、施設内は清掃が行き届き居室は畳敷きである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市内より離れた環境にあり、周辺には田畑や緑の多い閑静な環境にある。敷地も非常に広く、畑作業を利用者のレベルに応じて行っている。施設内の環境美化を徹底して行い、利用者が過ごしやすい居住を心掛けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	報謝会理念と施設理念の唱和を日々行い、管理者、職員で理念の共有を行う。		法人の理念を基本にグループホームの理念を3ユニット共通で作成しており、職員で毎日唱和することで理念の共有と日常のケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議にて地域との交流、連携を図る。地域イベントへの参加はほぼ出来ていない状況である。		職員を中心に地区の清掃活動に参加している。また、事業所で開催する夏祭りに近隣より参加がある。その他小・中学生の職場実習などの受入れを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域清掃活動や実践経験を活かし、認知症キャラバン等を計画している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂いた質問や意見等をサービス向上に活かしている。		運営推進会議には市役所や警察署などからも出席があり、感染症や防犯の情報を共有するほか、事業所の現状報告などを行い、ケアの実践に会議での意見を反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ケアサービス向上の為、市職員からのアドバイス等を頂き活用している。		介護保険をはじめ、市役所の各課と連携を図り、利用者の受入れの情報交換やケアの質の向上を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待・身体拘束委員会を中心に、会議や資料配布を定期的に行い、身体拘束防止へ取り組んでいる。		身体拘束委員会を立ち上げ、職員の知識や技術の向上を図るほか、法人内での研修や事業所外の研修に積極的に参加し、身体拘束の防止に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会を実施し、虐待防止を徹底するよう取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要と考えられるご利用者様へ活用が出来るよう勉強会を行い、成年後見人制度や日常生活自立支援事業について学んでいる。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解、納得を得る為に、家族へ説明を行う際は個々の立場に立って確認を行いつつ、説明を行うように努めている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見、要望書箱を設置し、意見の収集を図っている。	来訪時に家族との対話を積極的に図ることにより、意見の収集に努めている。また、遠方の家族には手紙やメールなどで意見のやり取りを行い、ケアの実践に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談や職員会議時に意見や提案を聴取し、その反映に努めている。	職員会議や各ユニットでの個人面談を定期的に行い、職員からの意見を集約することで、設備改善や利用者のケアに反映できるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	夜勤手当や資格手当に満足出来てない。皆勤手当等も無く、向上心の低下は見られる。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的にOJTを支援し、資格取得へ繋げている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内クラブ活動を行っている。また、定期的なグループホーム連絡協議会に参加し、研修・交流を図っている。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要望や不安等を傾聴し、ご本人様の思いを大事にしながら、より良い関係作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の立場に立って、要望や不安等の傾聴を行いながら関係性を深め、より良い関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事情や要望を基に、初期サービスとして必要な支援方法を工夫し行うよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗いものや床掃除、洗濯物たたみ等といった日常生活について、ご利用者様に役割を持って生活して頂いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様とご家族様の関係性を考慮しつつ、出来るだけ疎遠にならない様に家族便りを活用するも、面会数等は変わらず。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩へ付き添い、馴染みのある場所や知人宅等へお伺いし、交流の機会を図っている。	家族の協力のもと、外出を行うほか職員も同行し、墓参りなどの外出を行っている。また、遠方の家族には電話や年賀状のやり取りなどを行っている。随時来訪者の受入れなども行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の性格や相性等を考慮し、孤立しない席配置にて交流の場を設ける。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談は随時対応し、積極的に支援を努める。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴の収集に努め、一人一人「その人らしく」過ごせるよう周知し、支援を行う。		入居前には自宅での生活の様子を把握するために、自宅での面談の徹底を行っている。入居後も本人や家族とのやり取りで生活歴などの情報収集を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しつつ、プラン作成時や面会時等、生活歴の収集に努める。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	チームワークをもってご本人が有する能力の把握に努める。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員の気付きやご家族様、ご本人の要望を大切に、各関係者へ連絡、相談を行い反映している。		各ユニットで職員会議を開き、全職員が利用者個人のケアへの意見交換を行い、介護支援専門員や計画作成担当者を中心にその意見を集約し、介護計画作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録内容を反映したプラン見直しを行っているが、時折、内容が薄く記録として欠けている事がある。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様、ご本人様のニーズに合わせ、プランだけに捉われないように柔軟な対応がその時々で出来るように努める。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源活用の為に一部地元のクリニックを受診する等行っているが関わりは薄く、残されている課題も多い。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様、ご本人様の希望を確認し、同意が得られた場合は、協力医療機関を掛りつけ医としている。また、医療機関との連携を大切に、常に適切な医療を受けられるよう支援している。	協力医院の往診を中心に、各々の希望に沿った医療機関を受診できるように家族の協力を得ながら受診を支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	Nsへの医療申し送りノートを通じ、常に情報の共有化を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、病院、ご家族様等関係者各位への情報交換をしっかりと行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化・終末期における同意書をご家族様に頂き、その旨を職員に伝え、都度柔軟に対応している。	入居前には終末期などについて、家族に説明や確認を行っている。入居後も利用者の現状に合わせて主治医との連携や家族への意向確認を随時行い、安心して終末期を過ごせるように支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員へマニュアルを配布し定期的に指導を行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防と連携を取り、定期的に訓練実施を行っている。	火災の避難訓練は定期的に行われているが、夜間想定や地震に対する訓練に至っていない。また近隣との協力体制がなかなか構築されない実情がある。	今後は夜間想定での火災や地震に対する避難訓練を近隣住民の協力を得ながら実施し、災害等に備える体制の構築を期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた声掛けを行うよう職員へ指導行っている。		利用者への声かけは名字や生活歴でなじみのある呼称で行う。排せつや入浴に関しても同性介助での実施など個人の尊厳に配慮を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	閉ざされた質問ではなく、開かれた質問を行うよう取り組んでいる。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの動きや状態に合わせ、業務中心の介護にならないよう取り組んでいる。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思決定の出来る方は、着用したい洋服を自ら選んで頂くように取り組んでいる。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一部食事準備や下膳、洗い物を一緒に行うご利用者様がいらっしゃるが、現状出来ない方が殆どである。		法人内に配食センターがあり、食事は配食され、真空パック・冷凍での備蓄も備えている。職員が食事介助などを行いながら一緒に食事をとり、明るい雰囲気での時間を設けている。個々の力量に応じて、盛り付けや配膳・下膳を共に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせ、過剰介護にならないよう注意し、対応行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けを行い、過剰介護にならないよう注意し、対応行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様一人ひとりの意思や排泄パターンに合わせ、声掛けや誘導、介助を行っている。		可能なかぎり、離床して排せつができるように支援をし、利用者の多くがトイレやポータブルトイレでの排せつができるように支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	現在、ご利用者様一人ひとりの状態に合わせた量のヨーグルトを摂取して頂いている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日が決まってはいるが、都度ご本人様の希望に合わせ、柔軟に対応している。		利用者は週3回の入浴を基本とし、その他希望時には、利用者の意向に沿って入浴ができる体制を整えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は設けず、ご利用者様一人ひとりに意思を確認後、臥床介助を行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確実に処方箋に目を通し、理解を深めるよう指導を行い、症状の変化を確認、記録している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様一人ひとりの希望に合わせた役割を持って頂くことで、活気や意欲向上に努める。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様のご協力を頂きながら外出支援を行っている。また、日々職員で出来る限りの屋外散歩対応を行っている。		各ユニットでの近隣への散歩などを中心とした外出支援を行っている。その他、家族の協力の下、外出が出来るように体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、金銭管理はご家族様が行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望の際、電話を使用支援を行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃美化委員会を中心に清掃を行い、衛生面に注意している。また、季節に応じた飾りつけを行っている。	非常に広く作られたホームであり、施設内の環境美化に熱心に取り組むほか、ホーム内での装飾や敷地内の畑などを通じて四季が感じられるようになっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様が自由に、思い思いに過ごせるように支援を行っている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込める量が限られているが、出来る限り馴染みの物を活かし、本人らしい空間を作るよう努めている。	全室畳の居室であり、必要に応じてマットなどを使用し、車いすの対応を図っている。また、家族の写真や使い慣れた家財など、自宅での生活環境の再現にも配慮がされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ポータブルトイレ設置や手摺り増設等、出来るだけ自立した生活を過ごせるように努めている。			